

## 令和4年度第2回湘南西部地区保健医療福祉推進会議（書面開催）結果

### 1 協議事項

なし

### 2 報告事項

#### (1) 湘南西部地域における病床の取扱いについて【資料1】

《意見》なし

#### (2) 令和4年度第1回地域医療構想調整会議結果概要について【資料2】

《意見》なし

#### (3) 令和4年度病床整備事前協議について【資料3】

《意見》なし

#### (4) 基準病床数の見直し検討について（横浜、川崎北部、横須賀・三浦地域）【資料4】

《意見》なし

#### (5) 地域医療介護総合確保基金（医療分）令和4年度計画について【資料5、5-2 及び5-3】

《意見》なし

#### (6) 外来機能報告制度について【資料6】

《意見》なし

#### (7) 地域医療構想をめぐる国の検討会における議論について【資料7-1及び7-2】

《意見①：鈴木委員》

第13期第8次医療計画等に関する検討会（2022年8月25日）における医師以外の医療従事者の確保についての意見。

この検討会では歯科、薬剤、看護職員について検討されている。療養病床では看護補助者（いわゆる介護職）が配置されているが、この職に関しては言及されていない。現在看護補助者（介護職）は危機的に不足しており、特に夜勤のできる看護補助者がいなくなっている。看護補助者がいないと、療養病床の人員施設基準が守れず、人員不足で病床閉鎖の可能性もある。看護補助者（介護職）不足は喫緊の課題であり検討を開始して欲しい。

《意見②：望月委員》

神奈川県では、今後、資料の「地域医療構想をめぐる国の検討状況について①～②」にもとづいて第8次保健医療計画（案）を策定していくと承知している。

第8次保健医療計画の期間（令和6～11年度）においては、神奈川県が推進している医師の働き方改革（資料5-1「医療介護総合確保促進法に基づく令和

4年度神奈川県計画（医療分）策定の概要」の4頁）すなわち医療の供給減少の影響が出てくることが想定されるが、医療の供給と需要のバランスを保つための一つの取り組みとして、「骨太の方針2022」で掲げられた「OTC医薬品の拡大に向けた検討等によるセルフメディケーションの推進」があると思料する。

また、医療費という観点から見ると、協会けんぽの令和3年度の加入者1人当たり医療費の速報ベースのデータをみると、神奈川支部の加入者1人当たり医療費は193,805円で全国平均を3,030円上回っている。これは入院外の調剤医療費が全国平均よりも4,039円多いことが主因である。

医療の需要・供給のバランスを保ち、良質な医療が効率的に提供される体制を維持するという観点から、また、調剤医療費の適正化を進めるという観点からも、第8次保健医療計画では「セルフメディケーションの推進」を取り組むべき課題の一つとして取り上げるべきと考える。

以 上